

出 来 形 管 理

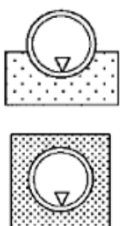
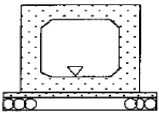

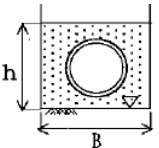
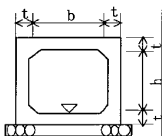
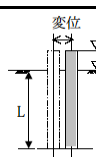
秋田市上下水道局下水道工事共通仕様書[R3. 4. 1以降適用]

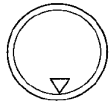
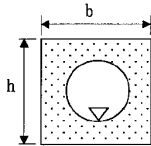
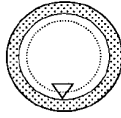
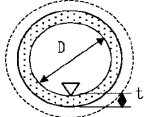
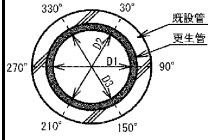
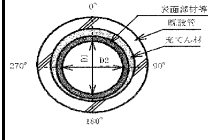
出 来 形 管 理

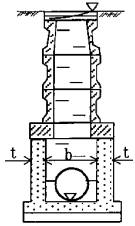
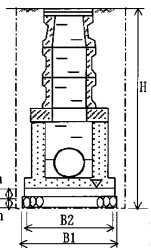
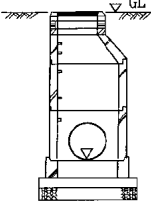
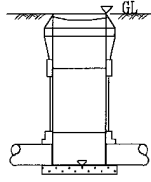
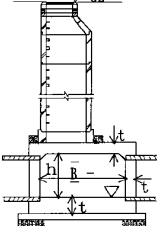
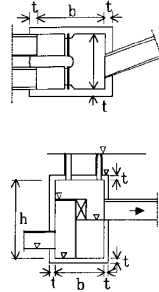
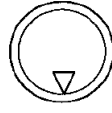
目 次

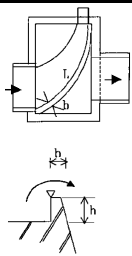
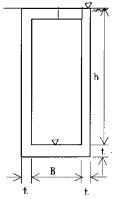
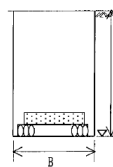
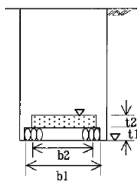
秋田市上下水道局下水道工事共通仕様書[R3. 4. 1以降適用]

1 管きよ工（開削）	1
2 管きよ工（小口径推進、推進）	2
3 管きよ工（シールド工）	2
4 管きよ更生工	2
5 マンホール工	3
6 特殊マンホール工	3
7 立坑工	4
8 付帯工	5

章	節	条	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要					
3	管路	3	管布設 (自然流下管)	基準高▽	±30	マンホール間の両端部を測定する。							
				中心線の変位 (水平)	±50								
				勾配	逆勾配としない								
				延長	-200				延長はマンホール間を測定する。				
				総延長	-200								
			矩形渠 (プレキャスト)	基準高▽	±30	施工延長20mにつきスパンの両端部等を測定する。							
				中心線の変位 (水平)	±50								
				勾配	逆勾配としない								
				延長	-200				延長はマンホール間を測定する。				
				総延長	-200								
			4	管基礎工	圧送管	土被り	±30	土被りは施工延長100mにつき1箇所および変化点を測定する。基準高は両端部を測定する。施工延長おおむね40mにつき1箇所の割合で測定する。					
						基準高▽	±30						
						中心線の変位 (水平)	±50						
						総延長	-200						
			4	管基礎工	砂基礎	基準高▽	±30	各マンホール間ごとに1箇所測定する。					
		幅 b				-50							
		厚さ h				-30							
		碎石基礎			基準高▽	±30							
					幅 b	-50							
					厚さ h	-30							
コンクリート基礎	基準高▽	±30											
	幅 b	-30											
	厚さ h	-30											
5	水路築造工	現場打水路	基準高▽	±30	1打設長ごとにスパンの両端部等を測定する。1打設長が20m以上の場合は、20mにつきスパン両端部を測定する。								
			中心線の変位 (水平)	±50									
			幅 b	-30									
			高さ h	±30									
			厚さ t	-20									
			勾配	逆勾配としない									
			延長	-200				延長はマンホール間を測定する。					
			総延長	-200									
			6	管路土留工				鋼矢板土留	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所測定する。20m未満は、1施工単位につき2箇所測定する。		任意仮設の場合は除く
									根入長 L	設計値以上			
変位	100												

章	節	条	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 管路	3 ・ 4 管きよ 工 (小口径 推進)	2 推進工	推進工	基準高▽	±30	推進管1本ごとに1箇所測定する。			
				中心線の変位 (水平)	±50				
				勾配	逆勾配としない				
				延長	-200				延長はマンホール間を測定する。
				総延長	-200				
	3 立坑内 管布設 工 (推進)	空伏工	基準高▽	±50	1 施工箇所ごとに測定する。				
			幅 b	-30					
			高さ h	-30					
			中心線の変位 (水平)	±50					
			延長	-50					
			勾配	逆勾配としない					
	5 管きよ 工 (シールド)	2 一次 覆工	掘進工	一次基準高▽	±50	セグメント5リングにつき1箇所測定する。			
				一次中心線の変位	±100				
				延長	-200				延長はマンホール間を測定する。
				総延長	-200				
3 二次 覆工		二次覆工	二次基準高▽	±50	基準高、中心線の変位、仕上がり内径は、おおむね施工延長40mにつき1箇所測定する。				
			二次中心線の変位	±50					
			二次覆工厚 t	-20				二次覆工厚、1打設ごとに端面で上下左右4点を測定する。	
		仕上がり内径 D	±20						
		勾配	逆勾配としない						
		延長	-200	延長はマンホール間を測定する。					
		総延長	-200						
3 管路	6 管きよ 更生 工	4 管きよ 内面被 覆工	反転・形成工法	仕上がり内径 D	硬化後24時間以降	1 スパンの上下流管口で測定する。 人が入って測定できる場合は、仕上がり内径について1 スパンの中間部付近でも測定する。 それぞれ更生管円周上の6箇所を測定する。 硬化後24時間以降で計測し記録する。		最新版の「管きよ更生工法における設計・施工管理ガイドライン」に準拠して実施する。	
				更生管厚	6箇所の平均管厚が呼び厚さ以上で、かつ上限は+20%以内とし、測定値の最小限は設計更生管厚以上とする。				
		製管工法	仕上がり内径 (高さ・幅)	平均内径が設計更生管径を下回らない。		1 スパンの上下流管口で測定する。 人が入って測定できる場合は、仕上がり内径について1 スパンの中間部付近でも測定する。 それぞれ更生管の内側中央高さと幅の2箇所で測定する。			

章	節	条	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 管路	7 マンホール工	2 標準マンホール工	標準マンホール工	基準高▽	±30	マンホールごとに測定する。		
				幅 b (内法)	-30			
				壁厚 t	-20			
				人孔天端高	±30			
		3 マンホール基礎工	マンホール基礎工	基準高▽	±30	マンホールごとに測定する。		
				床掘深 H	±30			
	基礎工幅 B1			-50				
	基礎工高 h1			-30				
	コンクリート工幅 B2			-30				
	コンクリート工高 h2			-10				
	3 組立マンホール工	組立マンホール工	基準高▽	±30	マンホールごとに測定する。			
			人孔天端高	±30				
4 小型マンホール工	小型マンホール工	基準高▽	±30	マンホールごとに測定する。				
		人孔天端高	±30					
3 管路	8 特殊マンホール工	3 躯体工	現場打ち特殊人孔	基準高▽	±30	特殊人孔ごとに測定する。		
				幅 B	-30			
				高さ h	±30			
				壁厚 t	-20			
				人孔天端高	±30			
	伏せ越し室・雨水吐室工	伏せ越し室・雨水吐室	基準高▽	±30	箇所ごとに測定する。			
			幅 b (内法)	±30				
			高さ h	±30				
			厚さ t	-20				
伏せ越し管工	伏せ越し管	基準高▽	±30	箇所ごとに測定する。				
		中心線の変位	±30					

章	節	条	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
3	管路	8	特殊マンホール工 越流堰（雨水吐室）	基準高▽	±10	基準高は、中央および両端部を測定する。 幅、高さ、長さは、箇所ごとに測定する。				
				幅 b（厚さ）	±20					
				高さ h（深さ）	±30					
				延長 L（長さ）	-20					
			中継ポンプ施設	基準高▽	±30	ポンプますごとに測定する。				
				幅、長さ B	-30					
				深さ h	-30					
				壁厚 t	-20					
		1	2	3	立坑工 土留工	基準高▽	±30	立坑箇所ごとに測定する。		
						立坑寸法 B	±100			
					立坑土工	基準高▽	±30	立坑箇所ごとに測定する。		
						立坑碎石基礎幅 b1	-50			
立坑碎石基礎厚 t1	-30									
立坑底版コンクリート基準高	±30									
立坑底版コンクリート幅 b2	-30									
立坑底版コンクリート厚 t2	-10									

章	節	条	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
					個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X10)			
					中規模以上	小規模以上	中規模以上			
3 管路	10 付帯工	4 道路復旧工	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高 ▽	±40	±50	—	基準高は延長40m毎に1箇所 の割とし、道路中心線および 端部で測定。 厚さは路線延長200m毎に1 箇所以上を掘起こして測定。 幅は、延長80m毎に1箇所 以上の割に測定。ただし、 設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定する ことができる。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、 1層あたりの施工面積が 2,000㎡以上かつ使用する 基層および表層用混合物の 総使用量が500t以上の場 合。 ・小規模工事とは、1層あ たりの施工面積が2,000㎡ 未満または使用する基層お よび表層用混合物の総使用 量が500t未満(コンクリー トでは400㎡未満)	
			厚さ	-45	-45	-15				
			幅	-50	-50	—				
			アスファルト舗装工 (上層路盤工)	基準高 ▽	±30		—			
			厚さ	-25	-30	-8				
			幅	-50	-50	—				
粒度調整路盤工	基準高 ▽	±30		—						
厚さ	-25	-30	-8							
幅	-50	-50	—							
アスファルト舗装工 (上層路盤工)	基準高 ▽	±30		—	基準高は延長40mごとに1 箇所の割とし、道路中心線 および端部で測定。 厚さは、1,000㎡に1個以 上の割でコアーを採取もし くは掘り起こして測定。 幅は、延長80m毎に1箇所 以上の割に測定。ただし、 幅は設計図書の測点によら ず延長80m以下の間隔で測 定することができる。	○コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取に より床版等に損傷を与える 恐れのある場合は、他の方 法によることが出来る。				
セメント(石灰)安定処理 工	厚さ	-25	-30	-8						
	幅	-50	-50	—						
	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定 処理工)	基準高 ▽	±30					—		
厚さ	-15	-20	-5							
幅	-50	-50	—							
アスファルト舗装工 (基層工)	基準高 ▽	±30		—	幅は、延長80m毎に1箇所 以上の割に測定。ただし、 幅は設計図書の測点によら ず延長80m以下の間隔で測 定することができる。					
アスファルト舗装工 (表層工)	厚さ	-9	-12	-3						
	幅	-25	-25	—						
	基準高 ▽	±30		—						
厚さ	-7	-9	-2							
幅	-25	-25	—							